

火山噴火災害の最終回は、大災害の恐れがある火山についてお知らせします。

火山噴火は気象庁が事前に噴火警戒レベルを引き上げた警報を出し、ニュースになります。

平時の旅行・訪問等は安全です。各地の観光に風評被害を与えぬよう行動してください。

【富士山】

今の富士山（新富士火山）は3つのプレートの境界にあった基の火山が噴火を繰り返し、約1万年前に新富士ができ、さらに大規模噴火を繰り返し、約3200年前に今の形になりました。

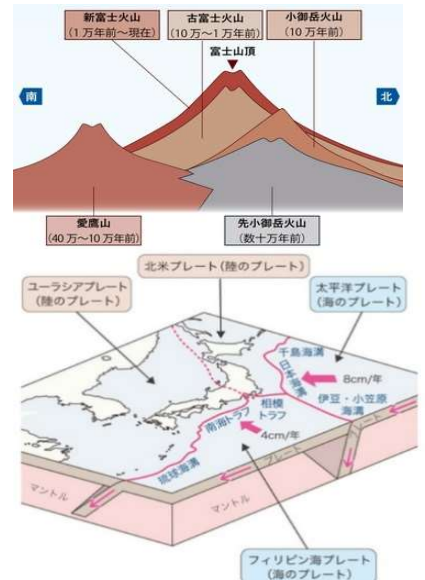
国・山梨・静岡・神奈川県は共同で2021年ハザードマップを見直し、今年3月に「富士山火山避難基本計画」を作り公表しました。

山梨県の広報web

富士山火山避難基本計画：静岡県

※分かりやすいです

※山梨県も同様の資料あり、読むのは大変です



出典 YAHOOニュース8月19日

富士山の直近の噴火は、1707年の宝永噴火です。その後300年以上沈黙しています。宝永地震の49日後から噴火し始め、2週間噴火し続けたため、富士山噴火と南海トラフ地震との連動性が懸念されていますが、過去に連動性が見られるのは以下の4回です。

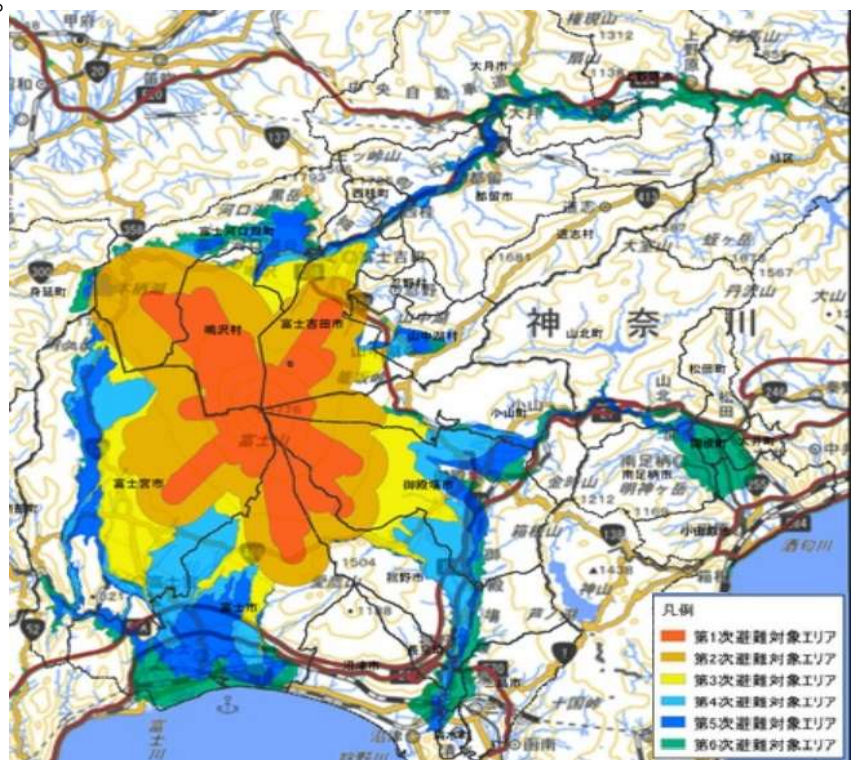
864年 貞観噴火	878年相模・武蔵地震（相模トラフ）	887年仁和地震（南海トラフ）
1083年 噴火	1096年永長東海地震（南海トラフ東部）	
1435年 噴火	1433年永享相模地震（相模トラフ）	1498年明応地震（南海トラフ東部）
1707年 宝永噴火	1707年宝永地震（南海トラフ）	

南海トラフ地震は上記の他に何回（十数回）も起きているので連動性は確実ではありません。また地震が先か、噴火が先かも一概に言えません。

「富士山火山避難基本計画」の資料は膨大なので、旅行や訪問時の対応に絞って解説します。

右に「避難対象マップ」を挙げます。オレンジ色の想定火口（過去実績）で最大規模の噴火が起こった場合のマップです。想定火口すべてで噴火する訳ではありません。

- ・黄土色部は噴石と火砕流も到達します
富士吉田市、鳴沢村、河口湖町
御殿場市、富士宮市、富士市、裾野市
- ・溶岩流は駿河湾と相模湖まで達します
過去には、三島溶岩流（三島市）、
猿橋溶岩流（大月市）がありますので
大袈裟ではありません



避難対象エリア	可能性マップの範囲
第1次避難対象エリア	想定火口範囲
第2次避難対象エリア	火砕流等、大きな噴石
第3次避難対象エリア	溶岩流(3時間以内)到達範囲
第4次避難対象エリア	溶岩流(3時間～24時間)到達範囲
第5次避難対象エリア	溶岩流(24時間～7日間)到達範囲
第6次避難対象エリア	溶岩流(7日間～最大で57日間)到達範囲

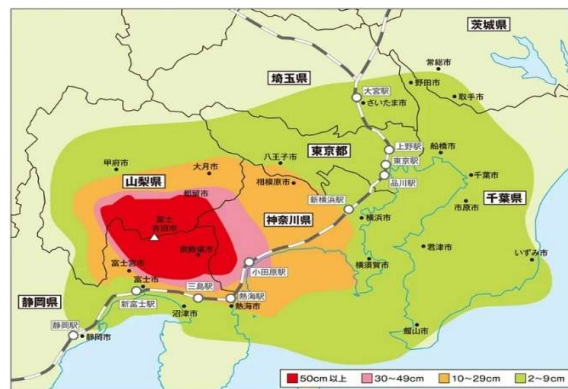
観光客等は、『遅くとも警戒レベル3までに帰宅を開始』、と避難計画に示されています。
噴火が進行した際の地元の方々の避難がスムーズに行えるように、早めに避難し帰宅しましょう。

なお三島市への黄瀬川沿いと、小田原市への酒匂川沿いは、火山泥流の恐れがあり避難経路に向いてません。どうしても動きが取れない場合は箱根山や愛鷹山の高台に逃げましょう。

また、火山性微動が始まってから噴火までには1ヶ月を要するという「1ヶ月ルール」という学説がありますが、現世では誰も富士山噴火を体験していないので根拠が乏しいと、私は思います。

もう一つ、火山灰の降る「降灰可能性マップ」を示します。「可能性マップ」とは、噴火口の位置と季節の風の向き・強さ、積雪量等の変動要因を重ね合わせたもので、最悪の災害予測パターンです。避難計画にある資料を簡略化したものを右図に示します。

- ・幸い、長野県には降灰はありません
- ・韮崎市や静岡市より西に逃げるのが安心です
- ・首都圏にいたら、上越線・関越道沿いに北へ向かう中央線沿いは影響がありそうです
ただし、首都圏では多大な影響を受けます
空港閉鎖、交通マヒ、停電、通信障害、コンピューターの停止等により日本や世界経済に多大な影響を与えると云われています。その対策は、個人では不可能です。



が、長野県は、西から災害対応の物資・人員派遣（自衛隊が主）や、災害復興の拠点として位置しますので、何らかの小さなことでも協力したいものです。

【九州のカルデラ群】

もう一つ注意が必要なのが、九州地方のカルデラと九州南部の大地を作った火山です。破局的噴火を起こしたといわれるカルデラの一部が今世紀になっても活発に活動しています。

始良（あいら）カルデラ 桜島南岳

南岳山頂と、南岳東側の昭和火口から噴火継続中
3万年前の破局的噴火で、大阪35cm東京10cmの降灰を観測
2023年9月時点で噴火警戒レベル3

加久藤（かくとう）カルデラ 霧島山火山群

韓国（からくに）岳、新燃（しんもえ）岳、高千穂峰、御鉢（硫黄山）、大浪池（山）等、20の山の集合体
1800年代から水蒸気爆発、溶岩流出、火砕流など多数
2023年9月時点で御鉢が噴火警戒レベル2

口永良部島（くちのえらぶじま） 新岳と古岳

屋久島の西12km、鬼界カルデラの南15kmに位置
2015年5月に噴火、時速140km/hの火砕流が海まで到達し
全島民が屋久島へ避難、2016年6月まで避難継続
本年6月から火山性地震、山体膨張を観測
2023年9月時点で噴火警戒レベル3
なお鬼界カルデラは7300年前の縄文時代の破局的噴火で火山が水没し、大阪で20cmの降灰を観測

阿蘇（あそ）カルデラ 阿蘇山

2016年10月爆発的噴火 愛媛香川で降灰を観測
2021年10月水蒸気噴火 火砕流と降灰を観測
2023年9月時点で噴火警戒レベル1



※九州火山の出典は気象庁、他多数

九州の噴火の怖いところは、偏西風で降灰が日本全土に及ぶ点です。日本経済に与える影響はもとより、破局的噴火の場合は世界中に影響を与える可能性があります。九州の各カルデラ火山の場合も、警戒レベル3になったら、基本的に逃げるのが良いと思います。そして自宅ですること、降灰下ろしで家や自動車が潰れないようにし、火山灰による泥流に気を付け、川沿いを避け、高台へ避難するくらいです。

以上、火山噴火災害について4回にわたり配信しました。「噴火時」の参考避難経路を主に お伝えしました。が、もしもの時に思い出していただければ幸いです。